

2011 年度 システム工学部語学部会

自己点検・評価報告書

2012 年 3 月 31 日

自己点検評価（システム理工学部語学部会）

目次

1. 理念・教育目標
2. 教育内容・方法・成果
3. 内部質保証

1. 理念・教育目標

<現状説明>

システム理工学部語学部会では、学生が語学教育において身につけるべき能力を理念・教育目標として整備している。それぞれの内容は以下の通りである。学部ホームページ、「学修の手引」等を利用して、これらの情報を学内外へ公開していると共に、ガイダンスや授業を通じて、学生に周知をしている。

●理念

教育は学生の自主性形成と、より公平な社会作りに重要な役割を担っており、我々教育者には、市民として学生が社会的、文化的、政治的に行動するためのビジョンを与える教育を提供する必要がある。我々が教育者、学生として必要なことは知識や真実の獲得だけでなく、善悪、不正や格差を克服する意思、社会現象に関連する幅広い視野を持つ、といった倫理感を持つことである。

語学部会の教育理念はしたがって、言語を習得することによって、日本だけでなく、世界における様々な社会問題を学生が自身の問題として捉え、多様な考え方を身につけ、不公平な社会構造を変える可能性を考え出し、そうした可能性を実現する力を学生に与えることである。

●教育目標

- ・英語を通じた学生のクリティカル・シンキング能力の開発
- ・英語・第二外国語を通じた学生の多文化理解の促進
- ・性、出自、宗教、民族等を根拠とした不当な差別の克服
- ・英語を通じたコンフリクト解決スキルの取得
- ・科学と技術、倫理の関係性の理解
- ・英語・第二外国語を通じ、多様な考え方を学生に伝える
- ・英語を通じ多様な社会問題を各授業で扱うことで、学生の多文化共生意識の向上促進
- ・ネイティブ教材を使用した英語・第二外国語のリーディング, listening, speaking, ならびにライティング能力の向上
- ・英語によるディスカッション能力の向上ならびに学生の主体的参加の促進

<点検・評価>

教育理念は、「学修の手引」並びに学部ホームページに掲載し、毎年内容を見直して掲載を行っている。教育目標に準じたシラバスを各教員に作成してもらい、毎年最新の内容を学生に提示している。

<根拠資料>

- (1-1) 語学部会の理念・システム理工学部「学修の手引」

2. 教育内容・方法・成果

<現状説明>

システム理工学部語学部会では、上記の教育理念を実施するために、様々な教育背景や教育アプローチを熟知した教員（専任・非常勤を含める総勢 23 名）を配し、効果的なカリキュラム展開を行っている。語学教育は英語教育と第二外国語教育を行っている。英語教育はディスカッションを中心として展開していることから、少人数教育が望ましいため、学生数 25 人以下で行うよう実施している。

2008 年、2009 年の学部学科増設に伴い、適切に小人数教育が実施できるよう、非常勤講師数を増やした。第二外国語に関しても、かねてから学生より要望のあったスペイン語、フランス語を 2008 年に新設し、受講者の多い中国語の授業数を増やした。授業はシラバスにしたがって適切に行われている。

●教育内容

芝浦工業大学システム理工学部の卒業要件を満たすには、学生は英語単位を少なくとも 8 単位取得する必要がある。学生は、システム理工学部ならびに他学部の英語科目から履修科目を自由に選択できる（注：但し、他学部の英語授業は履修者数等の都合により履修が認められない場合がある）。1 年次前期のみ、履修クラスは事前に決定されるため、5 号館掲示板にて発表される配属クラスの掲示を確認することとなっており、こうした手順に関しては、入学時のガイダンスにおいて学生に周知している。1 年次後期以降は、事前履修登録（Web システム「Sigsot」で手続きする）において、履修したいクラスの希望を登録することができる。授業開始までには、配属クラスが発表されるので学生には各自、確認するよう周知している。

システム理工学部のイングリッシュ・コースはすべてコンテンツ・ベースドである。コンテンツ・ベースドの英語教育とは、教育理念を効果的に伝えるための教育メソッドである。英語に関しては、リスニング、ライティング、スピーキング、リーディングというすべてのスキルがばらばらではなく統一して教授され、授業を通じて、学生が英語能力に自信が持てるようになっている。こうした教育方法は、ホリスティック・アプローチとよばれる。学生は英語圏で実際に使用されている「本当」の英語教材を通じて学び、そうした教材は社会性があり、大学生にとって理解できるレベルの教材となっている。学生は知的刺激に満ち、内容の豊かな学習環境で英語能力を獲得できる。コンテンツ・ベースド・コースは、このように英語学習者用のテキスト学習、英訳練習、日常会話練習、読解テスト、といった従来の文法中心の英語教育とは趣を異にしている。

第二外国語・コースは、1 年次は語学の基礎を学び、2 年次は 1 年次で学んだ語学のさらなる発展ならびに、各言語の文化背景を学ぶ内容となっている。

●担当教員

専任教員は 2 名であり（両名とも英語担当）、語学部会の運営を行っている。英語カリキュラムの非常勤講師は 14 名おり、英語圏出身の教員だけでなく、ハンガリー、フィンランド、日本出身のバイリンガルの教員がおり多様な人材が揃っている。教員の教育背景は社会学、文化人類学、女性学、哲学、歴史等多彩であり、学生の多文化意識・クリティカル・シンキング向上を目的とする部会目標に適した人材が揃っている。第二外国語担当非常勤講師は 7 名おり、教える言語のネイティブか、ネイティブに近い日本人講師を配し、学生にとって初めての言語を教えるのに適した経験豊かな講師陣となっている。

●イングリッシュ・カリキュラム

- ・ 1 年次 English Critical ThinkingI (前期 2 単位) English Critical ThinkingII (後期 2 単位)
 - ・ 2 年次 English Social Issues English I (前期 2 単位) English Social Issues II (後期 2 単位)
Critical Media StudiesI (前期 2 単位)
 - ・ 3 年次 English Critical Media Studies II(前期・2 単位) English Analysis of New Social Movement (後期 2 単位)
- * 上記に加え、学外英語検定 I・II (通年・各 2 単位) がある。
- * 学生は卒業までに英語科目を 8 単位 (選択) を取得することが、卒業要件となっている。

●第二外国語・カリキュラム

第二外国語のカリキュラムには、中国語、韓国 (朝鮮) 語、スペイン語、ドイツ語、フランス語があり、ドイツ語以外は各言語ネイティブの教員を配している (ドイツ語担当教員もネイティブレベル)。

第二外国語カリキュラムでは、1 年次向けの各科目は、語学習得を主に目的とするが、2 年次の各科目では、各言語の文化や歴史、社会等も学べるクラスを総合科目として提供しており、学生の言語ならびに国際社会理解の促進に貢献している。以下が第二外国語カリキュラムである：

- ・ 1 年次：中国語 I・II、韓国 (朝鮮) 語 I・II、スペイン語 I・II、ドイツ語 I・II、フランス語 I・II
- ・ 2 年次：中国語圏の文化と歴史 I・II、韓国 (朝鮮) 語圏の文化と歴史 I・II、スペイン語中国語圏の文化と歴史 I・II、ドイツ語中国語圏の文化と歴史 I・II、フランス語中国語圏の文化と歴史 I・II

* 学生は卒業までに第二外国語科目を 2 単位 (選択) を取得することが、卒業要件となっている。

●教育成果

英語・第二外国語カリキュラムともに、学生の授業への満足度は高く、学生による授業評価アンケートでも満足度が高いことが実証されている。語学部会カリキュラムに対する学生の満足は、学生がそれまで知ることのなかった様々な社会問題を、授業を通じて学び、クラスメートや教員とディスカッションをすることでさらに理解が深まり、学生の視野が広がることから生じることが、学生評価アンケートのコメントから伺える。授業を通じて、社会に対する視野が広がるということは学部教育理念 (<http://www.se.shibaura-it.ac.jp/dean.php>)、ならびに大学教育理念 (http://www.shibaura-it.ac.jp/about/president_message.html) とも合致する。また、第二外国語に関しては、卒業要件単位が 2 単位にあるにもかかわらず、内容の豊かさから、2 単位以上履修する学生が多い。このことから、教育内容の充実ぶりが伺える。

語学力の向上に関しても、学生から「ディスカッションを通じて、英語で話す自身がついてきた」、「第二外国語をネイティブに使ってみたら通じて嬉しかった」、といった肯定的な意見が同じく授業評価アンケートから伺える。但し、語学教育が、3 年次までしか提供されていないため、4 年次でblankが生じるので、大学院進学者の英語力の低さに問題が見受けられる。目下、大学院生の英語指導は、専任教員が、学生からの要請に応じて、個別に指導をしているが、将来的には、大学院進学予定の 4 年制への英語授業の提供、ならびに大学院生向けの英語授業を提供することで、国際学会での英語による論文発表や、英語論文の作成ができるよう、語学教育の拡充を期待する。

<点検・評価>

語学プログラムの拡充に伴い、非常勤講師の管理、カリキュラムの見直し、授業スケジュール等管理、入試等試験問題作成等の作業量が増加したこともあり、2012年に専任教員を1名増やすよう要請中である。

非常勤講師に関しては、他大学で専任のポジションが決まったため退職したり、東日本大震災後、母国に帰国するため退職した講師がいたり、定着率に問題があり、非常勤講師の確保ならびに、募集後の手続きに大変な労力が年間を通じてかかっている。現在の大学制度では、非常勤講師は3コマしか担当できないので、制度の円滑な運営のために、非常勤講師の担当コマ数の柔軟化、任用手続きの簡易化等が望まれる。

また、非常勤講師に関しては、2009年度に、授業中に学生を大声で怒鳴る、暴言を吐く、といったハラスメント行為をした講師が1名、授業中に学生を教室に残したまま、どこかに行ってしまうといった行為が問題となった講師が1名おり、学部長とともに専任教員が指導を行った。専任教員はその後、こうした問題が生じないよう、講師室にハラスメント防止に関する資料を掲示したり、授業の様子を伺ったりといった処置を継続的に行っている。現在は、このような問題の報告はないが、学生が安心して、質の高い授業を受けられるよう、今後も非常勤講師の管理には注意を払っていく。

授業内容に関しては、英語・第二外国語カリキュラムともに、経験を積んだ各教員が、語学部会の理念を盛り込んだ内容を授業で実践している。教育内容は、国内外の社会問題を中心とし、言語能力の向上とともに、クリティカル・シンキングの開発も試みており、学生にとって単なる語学習得を超えた、ホリスティックな語学授業となっていると評価できる。

<根拠資料>

- (2-1) 卒業の要件について・システム理工学部「学修の手引」
- (2-2) 2011年度 第1回共通科目委員会報告

3. 内部質保証

<現状説明>

語学部会では、教育の質保証のための制度を構築し、より学習効果の高い制度にするため、定期的に制度の見直しを行っている。また、非常勤講師が多いことから、教育制度の周知を非常勤講師と共有し、学生にとってより満足度の高い語学プログラム運営を実施している。

●教育制度

語学部会では、部会の理念・教育目標を実現するために、以下の制度を整備している：

・英語のクラスに関しては、効果的に英語能力を向上し、コンテンツ・ベースド授業を展開するために、25人以下のクラス編成を実施している。1クラスにおける人数を25人以下に制限しているのは、授業がディスカッションを中心とし、学生と教員、並びに学生間のコミュニケーションを円滑に図るためである。教員に関しては、英語で国内外の社会問題を授業で教授できる教員の配置を行っている。また、システム理工学部がシステム工学部から、システム理工学部になるに当たり、学科が増設され、学生数が増えた際には、25人授業が適切に運営されるよう、迅速に非常勤講師の増員を行った。

・第二外国語のクラスに関しては、ドイツ語以外は各言語ネイティブの教員を配している（ドイツ語担当教員もネイティブレベル）。システム理工学部がシステム工学部から、システム理工学部になるに当たり、学科が増設され、学生数が増えた際には、学生の要望にこたえる形で第二外国語科目を増やした。授業内容は、語学だけでなく、各言語の文化についても教授しており、語学の背景も学べる制度となっている。

●部会活動の公表

語学部会では、活動内容の現況を、各教員がシラバスに毎年掲載し、学内外に公表を行っている。

<点検・評価>

2010年度芝浦工業大学システム理工学部語学部会（自己点検・評価報告書）や、本報告書の作成を通じ、部会活動の自己点検・評価を行っている。

<根拠資料>

（3-1）2010年度芝浦工業大学システム理工学部語学部会（自己点検・評価報告書）